

# 新春特集

町長と語ろう

座談会

## 町長 × 辰野高校 生徒会

町が掲げる2050年までの目標「ゼロカーボン」。ゼロカーボンとは温室効果ガスの排出量を出るだけ減らし、同時に森林などによる吸収量を増やすことで、排出量と吸収量をプラスマイナスゼロにすること。

町の目標を知った辰野高校生徒会では「自分たちも…」と活動開始。その活動について町長と話し合いました。

司会 あけましておめでとう  
ございます。

今日は新春にふさわしく、  
快活な辰野高校生徒会のみな  
さんと武居町長の座談会をお  
こないます。よろしくお願  
いします。

町長 新年あけましておめで  
とうございます。令和5年の  
新春を迎え、恒例の新春座談  
会。今日は、昨年から学校を  
挙げて取組んでいただきまし  
たゼロカーボンにまつわる活  
動や目標をお話しいただきた  
いと思います。

古賀 辰野高校第75代生徒会  
長の古賀涼輔と申します。町  
長さんとこれからの辰野高校  
の未来を話せると思ったらワ  
クワクします。

佐藤 私は、辰野高校第75代  
生徒会会計の佐藤大介マーク

です。今は、少し緊張してい  
ますが、やはりワクワクした  
気分です。

司会 町長はとても優しい方  
ですので、緊張せずに、この  
場を聞きたいことを聞く場  
にしていだければ良いと思  
います。

宮下 辰野高校第75代生徒会  
議長団の宮下朝輝と申しま  
す。今はやはり緊張していま  
す。

司会 都合により2年生は画  
面越しでの参加です。新生徒  
会のみなさんお願いします。

伊藤 第76代目の生徒会長に  
なりました伊藤七海です。  
私、今とても緊張していて、  
自分が話したいことが、ま  
められるのか分からないので  
すが、いっぱい発言したいと  
思います。

清水 第76代生徒会副会長に  
なりました清水愛里と申しま  
す。これから先の辰野高校を  
担っていくのが楽しみです。

司会 まずは、第75代の生徒  
会のみなさんに生徒会の活動  
について伺っていきます。み  
なさんが色々な場所で活躍さ  
れていたことが耳に入ってく  
るんですが、実際にどのよう  
な活動をしていたのかをお話  
いただけますか。

古賀 私たち、第75代の重点  
目標は「地域に信頼される学  
校作り」で、そのために何が  
出来るかなと考えました。第  
75代生徒会は昨年11月10日の  
総会で任期が終了となってい  
ますが、それまでの1年間に  
赤十字の海外たすけあい募金  
や、辰野町が2050年まで  
にゼロカーボンシティを目指

していること知り、辰野高校の  
文化祭でもゼロカーボンを取  
り入れることにしました。

赤十字の海外たすけあい募  
金は、辰野高校の玄関、宮木  
駅、辰野町役場でおこなっ  
て、多くの方にご協力いただ  
いています。また文化祭で  
は、古着ファッションショー  
をおこないました。全校生徒  
から着なくなった服を集め  
て、その服を生徒会でリメイ  
ク。ステージで発表しました。

他にも全校制作で、全校生徒  
からペットボトルとキャップ  
を集めて自転車漕いで発電  
するフォトスポットを制作し  
たり、後夜祭では、ラテック  
ス風船を例年の打ち上げ花火  
の代わりに飛ばしたりしまし  
た。文化祭で使う団扇も紙製  
にすることで脱プラスチック

座談会参加者を  
ご紹介します

町長



武居 保男

辰高生の活動に興  
味深々。

辰野高校生徒会

第75代生徒会長



古賀 涼輔さん  
(3年生)

元陸上部。走るこ  
とが得意。

生徒会会計



佐藤大介マークさん  
(3年生)

元陸上部。得意種  
目は長距離。



文化祭の全校制作準備



ペダルを回して発電しライトを光らせた



古着をリメイクしてファッションショー



に協力が出来たと思います。  
司会 パンフレットも電子化されたそうですが。  
佐藤 例年は、紙のパンフレットでしたが、今年度はゼロカーボンの取組みとして、学校のウェブサイトアップして、それを各自で見てもらいました。

司会 プラスチックの削減や電子化で、ごみが減った実感はありますか。  
古賀 そうですね、辰野高校でもごみは少なくなっています。おそらく文化祭がきっかけになったんじゃないかなと思います。  
司会 このように辰野高校としてゼロカーボンの意識が向上してきたことで他にも感じることは…。  
古賀 辰野高校がこのような活動をおこなうことで、生徒の力で地域を元気に出来るんじゃないかなと思っています。  
司会 文化祭ではクラスごとに取組んだこともあります。

か？  
佐藤 はい。節電や節水、ごみの減量など各クラスが何か1つこだわりをもって企画に取組みました。  
司会 76代生徒会は本当にゼロカーボンや、ごみを減らすことをテーマに地道に取組まれてきたんですね。  
町長 ゼロカーボンに向けて、自分が何をしなければいけないか考え、色々な手法で取組んでいたただんだなと感じました。SDGs:世界が目指す持続可能な17の開発目標の中でも地球温暖化対策は、非常に大きな問題です。ゼロカーボン:つまり二酸化

炭素を2050年までにゼロにする動きの中で、自分たちに何が出来るか:気づいたことに対しての取組みを継続して欲しいですね。  
司会 学生の取組みを町として今後取入れることは:いかがでしょうか。  
町長 例えば、ほたる祭り。大変多くの方のご協力で開催しています。ここ2、3年は縮小していますが、通常ですと非常に大量のごみが出てしまったり、使用するものの中には環境にやさしくないものもあつたり。辰野高校のみならずの取組みを参考にしていきたいですね。

## 9,500万t。日本国内の服の製造から処分までの過程で排出される二酸化炭素の量です

司会 辰野高校のみなさんのアクションは生徒会で話し合っで決められたのでしょうか。  
佐藤 はい、生徒会の総務で話し合っで「こんなことが出来たらいいんじゃないか」と企画しました。  
司会 取組みを考えるためには、勉強されたこともあると思いますか。  
宮下 ゼロカーボンを知ってもらうために資料を作っで全校に公開しました。  
佐藤 古着ファッション

司会




つづき さとこ  
都筑 智子さん  
ミッションは「高校・短大と地域社会をつなぐコーディネイト」。

地域おこし協力隊




清水 愛里さん  
(2年生)  
何よりもダンスが大好き。

生徒会副会長



伊藤 七海さん  
(2年生)  
パドミントン部。スポーツ鑑賞が好き。

第76代生徒会長



宮下 朝輝さん  
(3年生)  
好きなことはお家でパソコン。

生徒会議長 団



参加されたみなさん

シヨで余った服を使って、今度は鍋敷きを作りました。10月におこなった町のゼロカーボンアクションのイベントでも「家族連れなどと一緒に鍋敷き作りをおこない、(古着は)そちらでも活用しています。

清水 元々は、余った服をリサイクルし海外に送るつもりでした。しかし、輸送時に二

酸化炭素を排出してしまいゼロカーボンへは貢献出来ないこと。また海外では、送られてくる服の多さに困っているというのを知りました。そこでアップサイクルをして地域で集まったものを地域で消費しようと考えたのが鍋敷き作りのきっかけです。  
\* アップサイクル 本来なら捨てられるはずのもの(デザインやアイデアといった付加価値を持たせ、再利用すること。  
司会 古着の寄付が、送られた先で問題になっていくことに課題を感じたわけですね。清水 はい。着なくなった服を発展途上国などに送る活動があることをみなさんも聞いたことがあるかと思います。日本以外にもアメリカやイギリス、ドイツなども同様の活動をおこなってききました。しかし、送られた側では寄付されて助かる反面、送られてくる服が多すぎ、使用出来ない服が山積みになっていくのが現状です。他にも輸送時に二酸化炭素を排出したり、燃料を無駄にしまったり、ゼロカーボンの意義とは違って

いることに気づき、寄付することをやめました。9,500万t。これは日本国内の服の製造から処分までの過程で排出される二酸化炭素の量です。全国の二酸化炭素排出量に占める割合だと4.5%に値します。こういったことからアップサイクルをおこない、地域で活用したいと思いました。こんな風に普段の生活を少し工夫することで、自分たちが暮らす世界をより良く変えていけたらいいなと思っています。司会 問題意識をもって取組まれることは、素晴らしいと思います。しかし、鍋敷きワークショップの準備はかなり大変だったようですね。清水 古着を長さや幅を揃えて切って(短冊状にし、ミシンで)繋げて3mほどのひもを作ります。鍋敷きにするには、3本のひもを更に三つ編みしたものを使いました。この(長いひもを何本も作るため)準備作業に時間がかかって、当日



完成した鍋敷き



間に合うか不安なくらい(笑)。

清水 繋げる時もいろんな柄や色を入れて、完成した作品がカラフルでかわいいものになるように工夫しました。司会 放課後に準備してくださったんですね。

町長 非常に感動しましたね。ただ単に、古着を繋げたのではなく、「楽しみながら」という要素を入れて「マイ鍋敷き」みたいだね。自分独自のセンスで作られていたんだなど。とても感心しました。発想がすごいな。

司会 当日の写真を見ると、かなり小さいお子さんが参加されていますね。

古賀 参加者の親子と辰野高校生が協力し合って制作しました。私もとても良い活動になったと思います。

司会 コロナのこともあり、高校生が地域に出て地域の方

と触れ合いながら活動することは、久しぶりだったと思うんですね。どうでしたか。



古賀 第75代の生徒会重点目標は「地域に信頼される学校」です。この活動に協力出来たことは目標にも合致し良かったと思います。

清水 準備の段階では、参加予約も全然入らなくて...どうしようって、みんなですごく悩んで、色々なところに宣伝に行って。しかし、当日は予定よりも多くの方が来てくださって...その分私たちもすごく戸惑ってしまいました(笑)。

司会 来場者の方と楽しく活動が出来、会場には笑顔が溢れていて、辰野高校と地域の繋がりを感しました。

司会 清水さんが中心となっ

たとわっていきますが、本当にこのワークショップ大盛況だったんですね。この活動も含め第76代の新生徒会活動のことをお伺いしてもよろしいですか。

伊藤 はい。第76代の重点目標は「進取果敢」。信頼され親しみのある学校にしようという重点目標にしました。

伊藤 地域の方から信頼されるということは、辰野高校のことを地域の方にも知ってもらい、好きになってもらうことだと思っています。辰野高校はどなたのところだろうって考えたときに「ゼロカーボンとSDGsに貢献している学

校だよ」と思ってもらえるような学校を目指していきたいです。

町長 自分自身が高校生の頃は、電車を使ってはいましたが、学校の校門をくぐって、また校門から出て、家に着くまで地域との繋がりがなくて全くない時代を過ごしたことが思い出されまして。みなさんの発言を聞いていますと、積極的に自分たちの学校を知ってもらおう、地域の方と交流しよう……。地域の方の協力と、高校生のみなさんの力を借りることで地域がもっともっと良くなる。そのような期待を感じました。

## 映画会で一揆を起こそう

司会 第76代の活動がこれから本格的に始まりますが、具体的に何にか計画をしていますか。

伊藤 2月に映画上映会を開こうと思っています。内容としてはSDGsに関わるもので、辰野町のみなさんと辰野高校の生徒が「SDGsって

何だろう」ってもう1度考えてもらおうきっかけにしたいと思っています。

司会 上映する映画について具体的に決まっていますか。清水 はい。少しでも多くの方にSDGsに興味を持っていただくため、身近なものに関連付けられる映画です。

伊藤 映画のタイトルは「パレンティン一揆」。フェアトレードや児童労働に関連した映画です。アフリカの力カオ農園で学校にも行けずに労働する子どもたち。その現実と向き合っていく日本人女性の物語で、みなさんもパレンティンデーにはフェアトレードの商品を選びませんかという映画です。

司会 チョコレートって大体の人が好きだと思うんですが：チョコレートにもそういう問題が絡んでいることに生徒会のみなさんは問題を感じられたわけですね。

伊藤 コロナ禍で、本当に上映会が出来るかはわかりませんが、前向きに活動を進めていけたらと思います。それと、映画を見てもらった方には「かわいそうだな」や「こんな子たちがいるのか」だけの気持ちで終わって欲しくありません。今後、辰野高校の購買でもフェアトレード商品を販売していきたいと考えています。

町長 若いみなさん自らの発想で、今自分たちが出来ることへ積極果敢に取組もうという姿に驚きました。服の寄付にまつわる話で「善意が迷惑になってしまう」ことが出ていましたが、自分たちが良いことをしようと思っても、結果的には何かそれが悪影響になってしまう場面もある。それで、ちょっと話が逸れてしまいい申し訳ないんですけど：今からもう20年近くも前ですが、新潟に大きな地震があった時、現場に行ったことがあったんです。新潟中越沖地震です。「水が不足している」という情報が流れたら、おびたらしいペットボトルの水が全

## 地域で学ぶ。地域と共に。

司会 ちよつと話を交えて今度辰野高校のコース制の話をお伺いしたいと思います。今年度から普通科がコース制になり、その中に「地域探究コース」という地域との関わりを重点を置いているコースがありますね。

佐藤 地域探究コースは、今まで以上に地域との関わりを大切に、地域で活躍出来る

国から送られて来た。現地のみなさんはもう勘弁してくれとおっしゃっていて。辰野町で言うと荒神山体育館クラス建物やペットボトルの倉庫代わりに使われる。本来なら避難する方のために使われるべき所が、水で埋まっている現実を見ました。先ほど善意が迷惑になると聞いた時、その場面が思い出されて。何か行動するには、どういった効果が出るんだろうってことを踏まえながら行動を起こすことが大事ですね。映画会には、ぜひ行きたいな。観てみたいです。

人材育成を目的に、今年度から普通科に設置されました。地域の史跡巡りや企業訪問などで学習をおこないます。1年生では、辰野町や上伊那の歴史や自然、芸術文化を学び、地域の課題を理解します。2、3年生では、ICT機器の知識や技術を学び、自ら決めた地域の課題を掘り下げ発表出来る力を身につけ、地域



プロジェクト」にもご協力いただけると思います。これは、使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し再生するもので、ゼロカーボンに繋がったり、限りある資源を大切に使いたり。また、リサイクルによる利益は、視力を取り戻す活動や障がい者の自立・就労支援に使われるそうです。お店や役場へ回収ボックスを置いていただき、地域の方にもコンタクトレンズの空ケースを持ち寄っていただければと考えています。地域の方と関わりながら活動していきたいので、ひとりでも多くの方に協力いただきたいです。

代生徒会のみなさんは既に社会へ出るための準備をされていると思うんですが、今後のことをお聞かせいただきたいなと思います。

古賀 私は将来、食品開発をしたいと思っています。大学に進学して地域の食文化や地域産業のことを知り、長野県の食品開発に尽力し、長野県を元気にしていきたいです。

頑張りたいと思います。

宮下 生徒総会で議長として、人前で話すことや見やすい資料作りの力を付けることが出来ました。就職先で機会があるかは分かりませんが、つけた力を発揮し、活躍出来たらと思っています。

史があります。ほたる祭りも昭和の23年から脈々と引き継がれてきたお祭りです。当初は小さいお祭りでしたけれど、多くの方の力でどんどん大きい祭りになり、全国から人が集まるようになりました。同じように辰野高校生徒会も75代から76代の役員へ思いが受け継がれていることを感じましたし、みなさんの思いにも非常に感動しています。やはり行動に移すってことは大事ですね。どうか未来に：本当に住みやすい未来を目指して、地域連携：町のみなさんと辰野高校の生徒さんが、これからも力を合わせて取り組むことを願って止みません。ありがとうございます。

貢献に活用出来る様々な資格取得に挑戦することが出来るのが特徴です。

伊藤 地域探究コースは、辰野高校の学生が地域を学ぶ、調べる活動をおこないます。が、逆に私たち生徒会は、地域の方々に辰野高校ってどんな活動をおこなっているのか知ってもらいたいと思います。先ほどの映画上映会も地域の方と一緒に出来たらと思っていますが、生徒会でおこなっている「アイシテイ eco

司会 そんな風に学びの中でも辰野高校が大きく変わろうとしています。生徒会としても地域との繋がりをより深く築いていくために、また活動を地域の中で発展させていくために第76代の生徒会から辰野町にお願いしたいことはありますか。

佐藤 生徒会の活動を通して、事前の準備がともて大事だということと、先頭に立つて沢山の人を引っ張って行くことがとても大変だということとが分かりました。専門学校への進学が内定したので、当然ですが進学先でも

75代・76代と言うことは、ほたる祭りと同じくらいの歴史があります。

司会 ありがとうございます。本日の座談会で町と辰野高校生徒会との繋がりが、更に深まったのではないのでしょうか。おそらく、辰野高校のファンが町の中に増えてくると思いますので、どんどん積極的に頑張っ活動していただければなと思っています。それではこれで座談会終了します。



座談会参加者のみなさん

司会 最後に第75